

★受験者・面接結果の概要

- ・ 氏名 : tack
- ・ 部門・科目 : 建設部門－鋼構造及びコンクリート
- ・ 年齢 : 40歳 (※令和6年度試験時)
- ・ 職業 : 公務員 (※地方自治体職員)
- ・ 受験歴 : なし (※令和6年度試験が初受験)
- ・ 面接時間 : 18分 (※面接室に入室～「以上で口頭試験を終了します」迄)
- ・ その他 : 5行経歴、業務詳細例、筆記試験結果 (A/A/A) は全て質疑なし

★提出した経歴書の概要

(1) 5行経歴

- ・ 入庁～現在に至る約15年の経歴を記載。所属歴はちょうど計5部署だったので、その履歴を素直に各行に記載。経歴間に空白の期間は無い。
- ・ 公務員ゆえ、何でも屋・調整屋的な側面が強いため、各行の業務内容の書き方は、できるだけ受験科目である鋼構造やコンクリート構造（特にコンクリート構造）にキチンと触れてきたことをアピールできるように配慮して、記載した。
- ・ 720字の業務詳細例は、最も直近の所属（5行目）での業務内容を選択。

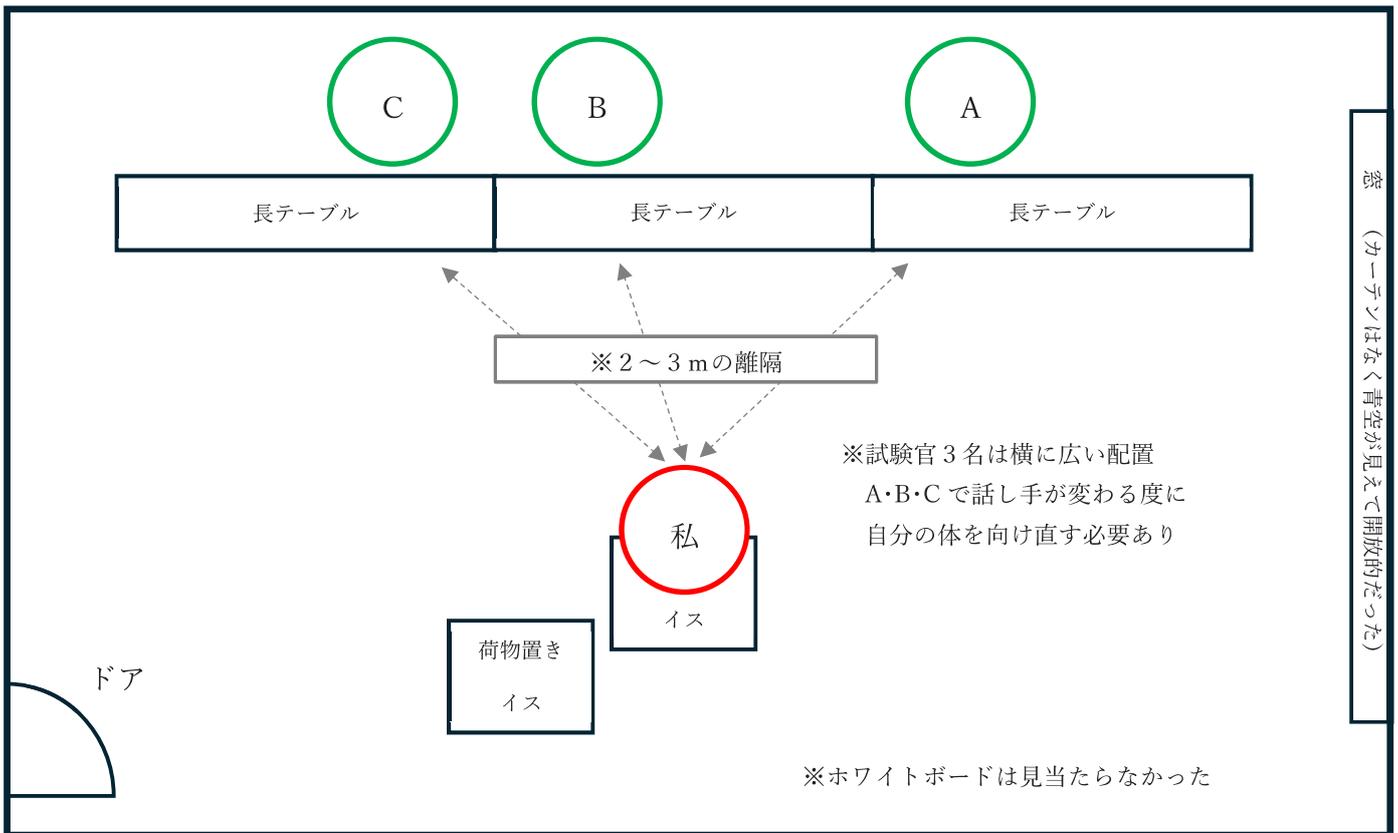
(2) 業務詳細例

- ・ 「供用中の橋梁構造物の老朽化対策」をテーマに記述。内容は以下の通り
 - ✓ 対象は2級河川に架かる1径間の小規模橋梁。構造形式はRC床版を有する鈹桁橋＋大部分が土中に埋まっているRC製の重力式橋台。
 - ✓ 建設後90年以上経つ建設記録がない不明構造物で、履歴として維持管理が未実施だった期間が長く、現状として上部工の経年劣化が顕著だった。
 - ✓ 自分は、この橋梁の老朽化対策の計画や設計を担当していた。
 - ✓ 技術的提案は、まずは復元設計や健全度診断で現況を整理した。その結果、下部工は比較的状态が良いことが判明したため、既存下部工は極力活用し、上部工は架け替えで機能回復することを提案。工事面だけでなく、取り急ぎ供用制限をかけて現場の安全を確保するソフト対策も提案した。
 - ✓ 成果は、第三者被害の未然防止、既存構造を活用したことで工事を省力化、架け替えにあわせて一部に構造変更（コンクリート床版→鋼床版）をかけて上部工を軽量化し下部工への荷重負担の軽減。

★口頭試験の日時・場所

- ・ 日時：令和6年12月15日（日）9：55～10：15
- ・ 場所：TKP 品川カンファレンスセンター
（品川区高輪3-25-23京急第2ビル）
※受付+控室は10F、面接室は9F（9C会議室）

★面接室の様子



試験官	C	B	A
コンピテンシー 試問分担	③ 技術者倫理	②-1 評価 ②-2 マネジメント	①-1 コミュニケーション ①-2 リーダーシップ ④ 継続研さん
見た目の印象 役割など	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 50代 ✓ 大柄で一見堅そうだったが、対応はニュートラルな感じ。 ✓ 自分を面接室内に誘導する案内役を担っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 60代 ✓ 見たところ一番ご年配の方。話し方がボソボソとしていて若干聞き取りづらかった。 ✓ 特に役割等は無かった様子。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 50代 ✓ キッチリとした雰囲気の方、対応は柔らかな感じ。 ✓ 3人の中でもメインなのか進行役を担う感じだった。

★質疑応答の復元

青字は試験官の発言、赤字は対象のコンピテンシー、 は固有名詞等をマスキング

- (※試験官 C に誘導される格好で、ドアをロックすることもなく面接室に入室)
- (※荷物を置いて座席の右側に立つ)
- (※「受験番号と氏名をお願いします」の案内は無かったため、自発的に発言開始)

受験番号 、 と申します。本日はよろしくお願ひいたします

A: はい。どうぞ、おかけください。

(※着席)

A: それでは口頭試験を始めさせていただきます。

よろしくお願ひいたします。

A: 私からは「コミュニケーション」と「リーダーシップ」についてお聞きします。これまでご経験されていた業務で、様々な関係者がいる中で、コミュニケーションで何か工夫した点はありましたか？

はい、それでは提出させていただいた業務詳細例の内容で説明させていただきます。この業務詳細例では「供用中の橋梁の老朽化対策」をテーマに書かせていただきました。この業務の遂行に当たっては、大きな利害関係者として、河川管理者さん、橋梁のユーザーの方々、この2つが大きく存在していました。

この方々と協議を進めるにあたり、コミュニケーションで工夫した点としては、協議の相手方がエンジニアである場合には、技術的な資料提示を行いながら協議を重ねていくこと、一方エンジニアではない方々の場合には、分かりやすい資料提示を行いながら意思疎通を行うこと、といったことを工夫したところにあります。

今回の事案は河川上の橋梁ですので、まずは河川管理者さんと対策方を協議してまいりましたが、彼らは我々がこの橋に行く工事に対して、河川法に基づく許認可を行う機関でもありますので、図面関係であったり、これまで我々が行ってきた各種の点検調査報告書であったり、そういった技術的な資料を提示しながら協議を進めてまいりました。

一方、橋梁のユーザーの方々というのは、そういった土木技術的な知見を有していない方々なので、できるだけ専門用語を排除した説明であったり、マンガ絵・ポンチ絵を駆使した概念的に訴えかけられるような、分かりやすい資料提示を行って協議を行いました。

このように、相手方の属性をよく理解して、基本的には書面主義に従って、祖語のない意思疎通を行ってまいりました。これらが、コミュニケーションで工夫した点になります。

A：橋梁のユーザーというのは、近隣の住民さんということですか？

橋梁のユーザーには2種類おりまして、1つは[] 公営住宅の住民さん、特に住民自治会さんと調整をしておりました。もう1つは、[] と調整をしていました。

A：はい、それではその関係者との調整の中で、リーダーシップを發揮された内容はありますか？

リーダーシップを發揮した内容は、この橋梁の老朽化対策の具体的なその方法として、既存の下部工構造物については大部分は生かすこととしまして、上部工に対策を集中させていく、という中庸案を提案したことにあります。

(※「中庸案」という単語を聞き、他の面接官が頷いて一斉にメモをとっていた)

まず、河川管理者さんと対策方について協議を進めていった中で、まず指導されたこととしては、今回の対象物が建設年数が90年以上経っているということ、また建設記録もない不明構造物である、ということから、本来であれば今ある構造物はいったんすべて撤去してしまって、イチから再構築していくべきだ、ということ強く指導されていました。

一方、これを踏まえて橋梁のユーザーの方々に対策工事の具体について協議をしていたところ、どうしても橋に対して工事をしている間は、別のルートに大回りして迂回対応していただく、という実害を被ることになりますから、その原因となる対策工事の規模感というものはなるべく小さいものにして欲しい、という真逆のオーダーを受けておりました。

これらの利害の相反を解決する方法といたしまして、比較的劣化が進んでおらず状態が良いことが判明した下部工については、できるだけ大部分は生かすこととしまして、一方かなり劣化が進んでいた上部工については、架け替えによって真新しいものにして抜本的な機能回復を図る、という中庸案を提案して、各利害関係者と調整、取りまとめを行ってまいりました。これがリーダーシップを發揮した内容になります。

(※試験官 A が試験官 B,C に「よろしいですか？」と合図し、何も起きず先に進む)

B：それでは私からは「評価」や「マネジメント」についてお聞きします。まず評価についてお聞きしますが、携わってきた業務を振り返って、何か今後に生かすための反省点や改善点などはありますか？

はい、これも業務詳細例の内容で説明させていただきますが、今回、橋梁の架け替え工事を公共工事として発注した際の積算方法について、反省点や改善に資する内容があったと考えています。

今回、この橋の架け替え工事は、XXXXXXXXXX、XXXXXXXXXX、実は過年度にXXXX度にわたって契約が不調となり、事業が遅滞した、という履歴がございます。

この原因をいろいろ分析してみますと、なんといっても我々が積算基準に基づきいわゆる官積算にこだわって積算をしたために、工事価格がかなり安く設定されてしまい、応札業者が1社も現れなかった、というのが原因でした。

また、今回の現場はXXXXXXXXXXであり、しかも橋梁も橋長XXXXmと非常に小規模なものでしたので、現行の積算基準になかなか合致しにくいシチュエーションだった、という風に判断しております。

ですので、今後はもっと民間企業各社さんから現場条件に見合ったお見積もりを柔軟に取り入れて、それを採用する、しかもそれを今回のように不調を重ねる前に、もっと早い段階で手立てを打っていきたい、というのが、反省点になります。

Q：工事の積算についてということでしたが、なにか具体的な展開などはされていませんか？

まずは同じ案件で改善を図ったことにはなりますが、先ほどXXXX度不調になったと申し上げましたが、XXXX度目のトライとなった発注では、お見積もりを主体的に取り入れた積算方法に大きく方針を転換いたしました。こうすることで、より実勢価格に近い工事価格に再積算して、無事契約ができましたので、まずは同じ案件の中で改善を図りました。

また、今回私が行ったこの再積算の事例というのは、職場内に情報共有ポータルのようなものがあり、そこに記録を残しております。ですので、他の職員は自分のデスクからいつでも私の事例を参考事例として参照できるようになっています。そのため、他の案件で不調のリスクが高い設計積算を控えている担当者は、私の事例を参考にしながら先んじて手立てを打てるようになっておりますので、このように私の事案が職場内に水平展開されて、活用されております。

Q：それではマネジメントについてお聞きしますが、業務には要求事項などが様々あると思いますが、その中で資源の配分を行ったことはありますか？

はい、資源の配分の観点では、まずは情報面に着目しました。特に既存の下部工に関する情報面です。

今回の事例では、既存の下部工を生かした工事計画を立案したわけですが、なにぶんこの下部工については、建設記録がない上、構造体のほとんどが土中に埋まっているため、姿見も見えないという状況でした。ですので、この下部工を活用していくために、まずはこれを調べ上げるために必要な復元設計であったり、状態を把握するた

めの健全度診断、といったものに関わる業務には、優先的かつ重点的に人や予算を投入してまいりました。

一方上部工につきましては、例えば架け替え後の上部工の設計では、防護柵といった付属物などは基本的に既製品のアリモノで構成していつてしまっていて、デザイン面は最低限のしつらえとしていく、ということで設計ボリュームを抑え、業務量のバランスを整えておりました。

また、この橋梁の架け替え事業そのものに関してもコストや工期の縮減圧力がかなり強まっておりましたので、そこは申し上げた通り、既存の材料を再利用していくことで工事規模を小さくしていき、コストや工期の縮減をしていきました。

しかし、コストや工期を縮めることに伴って、大事な構造物の品質そのものまで落ちてしまう、といったことは決してあってはなりませんので、そこは追加検討として、橋の架け替えにあわせて一部に構造変更をかけて、上部工の重量を軽量化していくこととしました。こうすることで、材料を再利用していく下部工にかかる荷重の負担を軽減して、将来にわたって下部工の品質を維持し続けていく、ということで品質面にも配慮してまいりました。

以上が、マネジメントを行った内容になります。

A：私からお聞きしたいのですが、お話しいただいた内容は、設計としての資源の配分ということでしょうか？

利害関係者との調整という意味でも、先ほど河川管理者との協議を行っていた際には、まずは図面関係の資料がないと何も始まらない状況でしたので、まずは復元設計には優先的に力を注いでおりました。

A：人や工程に関しては、何か行ったことはありましたでしょうか？

はい、人員の観点では、今回の業務では、XXXXXXXXXXの勤務歴があった職員をヘルプ要員として増員することを提案しました。

今回の事例では、河川管理者との協議には非常にエネルギーを要しておりました。今回つけたその職員というのは河川構造令などの知見を有しておりましたので、河川管理者だったら何を求めてくるのか？といったことをある程度先回りする形で、協議資料の作成を行っていきました。

こうすることで、見かけ上はヘルプの増員を付けたので人員増となるわけですが、本来2往復も3往復もかかるはずだった協議が1発で済ませられるようになったので、協議に要する延べ人員という観点では、ある程度削減することができましたので、人的資源の最適化を図れたのではないかと思います。

(※試験官 B が試験官 A,C にアイコンタクトを送り、特に何もなく先に進む)

☐：それでは私からは技術者倫理についてお聞きます。業務をするにあたり、倫理に関して何か気を付けてらっしゃることはありますか？

はい、いずれの業務においてもそうですが、公益の確保は常に念頭に置いて業務を行っております。

我々は官公庁の職員でもあります

から、もし我々の施設で何か工事を行う際には、とか、第三者被害を絶対に起こさない取り組み、そういったものを計画の段階からしっかり盛り込んでいく、ということを念頭に置いて、業務を行っております。

☐：利害調整では、どのように行ってきましたか？

これは、先ほど申し上げました利害関係者と調整をした内容を、倫理の観点でどう行ってきたか？ということで申し上げればよろしいですか？

☐：はい、お願いします。

今回の業務では、説明させていただいた通り、河川管理者さんや橋梁のユーザーの方々と協議を進めておりましたが、いずれも公益の確保を重視して協議を行ってまいりました。

例えば公共の安全確保の観点でいいますと、橋梁のユーザーの方々からは、「ヒト1人や自転車1台が通るくらいならすぐ崩れるわけではないのだから、もっと部分補修的なもので簡単に収めることはできないのか？」といったオーダーを受けたことがあります。しかし、我々は当座をしのぐ補修ではなくて、今後数十年あるいは100年先にわたって安全な施設を提供するという基本理念で動いていましたので、たとえそのようなオーダーを受けたとしても、私自身がこの基本理念から絶対にブレないように強く意識して、協議を行ってまいりました。

また環境の保全という観点におきましても、河川管理者さんからは「今ある構造物はすべて取り壊してイチから再構築すべきだ」ということを指導されましたが、申し上げた通り既存の材料をできるだけ再利用していく計画にすることで、当然発生する廃棄物の量も減りますし、工事の規模も小さくなれば、重機の稼働も減って発生CO2も減る、といったことも実現します。このように、工事の立案にあたっては、できる限り環境負荷の低減にも貢献していく、といったことにも配慮しながら、協議を行ってまいりました。

☐：公共の安全確保では、何か具体的な取り組みはありますか？

業務詳細例の中でも記載させていただきましたが、橋の架け替え工事だけでなく、橋に供用制限をかけるというソフト的な対策も提案しております。

本来であれば、橋の架け替え工事さえ満了すれば安全な施設が出来上がるわけですが、なにぶん公共工事ですので、契約手続きに数カ月、現場の準備工までに数カ月と時間がかかります。特に今回は申し上げたとおり■度も契約が不調になっていますので、年単位で現場の着手までに時間がかかっています。それまでの期間に、第三者被害が起きてしまうということは決してあってはなりませんので、まずは橋の供用制限をかけて、取り急ぎ現場の安全を確保することを提案しました。

こうすることで、まずは取り急ぎ供用制限をかけることで現場の安全が確保され、その状態で橋の架け替え工事が後から乗り込んできて、工事が完成して安全な施設ができる…といった形で、切れ目のない安全対策、現場の安全確保を行っていく、ということで、供用制限というソフト的な対策も並行して提案をしてみました。

(※試験官 C が試験官 A に「継続研さん」の質疑を引き渡すため、一泊の間が空く)

*****ここで腕時計を見たら15分が経過*****

A: それでは、私からは最後に継続研さんについてお聞きします。これまでの取り組み事例を教えてください。

はい、直近の取り組みでは資格取得に力を入れていました。令和4年にコンクリート技士…

(※喉が詰まって言い直す)

…失礼しました、令和4年度にコンクリート技士、令和5年度にコンクリート診断士、の資格をそれぞれ取得していますので、実務型あるいは自己学習型の継続研さんに取り組んでおります。

A: それでは、今後の取り組みについて何か考えていることを、教えてください。

今後は、自分のことだけではなくて、後進の育成指導にも力を入れていきたいと考えております。

わたくしは年齢的にも職歴的にも中堅の職員となっておりますので、職場内におります20代30代の若手の修習技術者の職員に対して、業務を通じての育成指導といったものに積極的に取り組んでいきたいと思っています。また、今後は技術士会にも入会してですね、講習会の聴講であったり月刊誌の購読であったり、様々な取り組みを取り入れながらの継続研さんといったこと考えております。

A: 現在、育成指導として何かやられていることはありますか？OJTですか。

(参考) 試験成績の開示請求結果

記

受験番号 XXXXXXXXXX
技術部門 建設部門
選択科目 鋼構造及びコンクリート

○ 技術士第二次試験 筆記試験の成績及び結果

科目	必須科目	選択科目	
	I (40 点満点)	II (30 点満点)	III (30 点満点)
成績	27.50 (A)	19.00 (A)	21.50 (A)
		40.50 (A)	
結果	合格		

A : 60%以上 B : 60%未満40%以上 C : 40%未満

注) 必須科目及び選択科目 (IIとIIIの合計得点) の各々の得点が60%以上で合格です。

○ 技術士第二次試験 口頭試験の成績及び結果

試問事項	技術士としての実務能力		技術士としての適格性	
	①コミュニケーション、 リーダーシップ (30 点満点)	②評価、マネジメント (30 点満点)	③技術者倫理 (20 点満点)	④継続研さん (20 点満点)
成績	23.00	23.00	16.67	15.67
結果	合格			

注) ①、②、③、④の得点がそれぞれ60%以上で合格です。

以上